

環境審議会大気環境部会（平成 28 年度第 2 回）委員意見整理表【主なもの】

※備考欄：①意見の趣旨を踏まえて対応済み、②今後反映予定、③今後検討

項目	委員意見	対応案	備考
削減目標	すう勢の数値について、国は微増と見込んでいるが、県の数値は妥当なものとなっているか違和感を感じる。	2030 年度のすう勢を再整理。「特段の対策を取らなかった場合」として、大規模事業者の今後の排出量見込みを反映)	①
	産業部門の二酸化炭素削減量の最も大きい要素としては、世界の産業構造の変化に基づく設備稼働率の低下とすべき。		
	運輸部門について、全国的に各県の対策に差があるとは思えない中で、国の計画と比べて削減率が低い。	運輸部門対策を再精査。「条例に基づく指導強化」「エコドライブの推進」を上積み)	①
	温室効果ガス総排出量の現状については、円グラフでは、産業部門に比べ、業務部門、家庭部門の伸びが大きいことがわかりにくい。部門ごとの温室効果ガス排出量の推移が分かるよう 2005 年度から棒グラフで示すべき。	第 3 章に追記。	①
	資料 2 のその他の内訳の中に三ふっ化窒素(NF ₃)も含めるべき。	対象とする温室効果ガスに三ふっ化窒素(NF ₃)を追加。	①
適応策基本方針	ヒートアイランド現象と熱中症を関連づけて整理すべき。	「暑熱による生活への影響に関する取組」の項目名を「都市生活における暑熱低減に資する取組」に変更し、暑熱全体に係る「暑熱に関する取組」とは別に都市部に係る取組を整理。	①
	優先順位はなるべく基本方針に記載すべき。すでに様々な支障が出ている項目については、施策を明確に示してもよい。	現在、既に影響の出ている分野・項目については着手済み。今後、調査・研究の成果も踏まえ再整理。	①③
全体	施策の対象が誰なのかが受け手に理解してもらえらるような工夫が必要。	第 6 章で「部門別・分野別」に重点的取組を整理。また、第 8 章で「各主体の役割」を整理。	①